

ディレクター日誌（活動・参加者の様子）

期 日：平成30年8月1日(水)～8月4日(土) 【3泊4日】
場 所：山口県十種ヶ峰青少年自然の家とその周辺山域（山口市阿東）
参加者：チャレンジプログラム参加児童の保護者5名

1日目「開会式 ～ バックパッキング」

8月1日(水) 晴れ
十種ヶ峰青少年自然の家・神角神社
テーマ：体験の日（仲間とのアイスブレイキング）

【活動の様子】

今年度の参加者は5人で、父親3人、母親2人、という構成となった。我が子をチャレンジプログラムに参加させたい、自分が体験してみたかった等、参加理由は様々であったが、縁あって出会った仲間たちとの4日間がスタートした。

はじめのつどいの後、アイスブレイクとしてお互いの名前を覚えていくゲームを行った。少し緊張気味であった参加者の表情がゲームを通して笑顔に変わり、気持ちがほぐれてきたようだった。

次に、大きなザックに各自が持ってきた荷物や貸出道具、食糧を詰め込むダブルシャッフルを行った。個人の装備は自分で背負うが、共同の装備は誰が何を持つかを決めなくてはならない。慣れない中でも、お互いに声を掛け合いながらパッキングを行う。

そして、いよいよ出発。先ほどのザックを背負うと荷物の重さに心も重く…。みんなで掛け声をかけ、ナビを先頭に神角神社に向かって移動する。その間には、地図の見方、コンパスの使い方、声のかけ方等、山道の歩き方のレクチャーがある。途中で十種ヶ峰むすびを食べ、子ども達も数日前に歩いた道を歩いていく。荷物の重さに、「子どもが本当にこの荷物を背負って下りているのですか？」の問いかけに、スタッフが「そうですよ。」と答えると、思わず「うそっ！！」との声があがる。

神角神社に到着後は、テントとタープを設営する。イントラ、サブイントラのサポートのもと設営するのだが、さすがペアレント。今までの人生経験を生かし手際よく、しかも美しく完成した。このような頼もしい親の姿をぜひ子供たちに見せたいものだ。

夕食はクック（調理係）を中心にラーメンをつくる。台所とは勝手が違うが、それぞれ仕事を分担して調理していく。ラーメンだけでなく、食材を工夫した副菜も完成。食後のコーヒーを飲みながら、本部スタッフのジャンボさんから初代ペアレントプログラムのディレクターとして、また山口県にこのキャンプのプログラムを導入された重鎮の一人として、活動の普及に努めてきた先駆者たちの思いを語っていただいた。

夜のミーティングでは、一日を振り返って気持ちの高揚したポイント（ハイポイント）と沈んだポイント（ローポイント）を各自に紹介してもらった。ハイポイントは、途中の冷たい水が気持ちよかった、休憩のときがうれしかったなどがあった。ローポイントは、下りがつらかった、どこまで続くのか心が折れそうなので聞かなかった等様々であった。その中でも、今日活動した中のきついと感じたことはすべて感動だったという感想があった。兄弟の上の子どもが参加したときにどんなことをしたか話を聞いていたけれど、今回やってみて初めてこんな重い荷物を背負って、こんな道を歩いてきたのかと分かり、そのことが自分にとっては感動だったと話してくださった。まさにそのことを感じるができることこそが、このペアレントプログラムの意義だろう。「明日の活動に向けてルート等の確認をし、5人が大切にしたいものを考えておいてくださいね」とのスタッフからの投げかけがあり、ミーティングは終了した。

《タイムスケジュール》

- 10:10 はじめのつどい
アイスブレイク
- 11:00 ダブルシャッフル
- 12:40 体育館発
～バックパッキング
昼食
- 16:50 神角神社着
テント・タープ設営
- 17:50 夕食準備
- 18:30 夕食
- 19:00 ジャンボさんのお話
- 19:20 ミーティング（Hi-Lo）
- 22:00 就寝



2日目 「バックパッキング～個人ふりかえり」

平成30年8月2日(木)
神角神社～鍛冶ヶ原
テーマ：挑戦の日（困難の克服と魂の休息）

【活動の様子】

2日目は5時起床。みんなでストレッチを行い、朝食後、テント・タープを撤収。昨夜投げかけられた個人の目標と5人が大切にしたいことについてみんなで共有する。みんなでゴールをしたい、最後までやり遂げたい、けがなく無事達成したいとのそれぞれの思いを伝え合った後、5人の掛け声「レッツ5（ゴー）！」も決まり、出発準備をする。

7時40分、鍛冶ヶ原に向けて出発。ナビを中心に地図読みをしながらルートを見つけて歩いていく。昨日とは違う山道の様子に、「これが本当の山登りだ！」との声もあがった。途中昼食をとり、下りが急なところでは、スタッフの張ったガイドロープを持ちながら、今朝子ども達が十種ヶ峰に向けて出発した鍛冶ヶ原に昼過ぎに到着し、テント、タープを設営する。

休憩も兼ね、個人の振り返りをするためにソロに入る。ソロの場所にディレクターが一人ひとりを順番に案内する。案内された場所にブルーシートと銀マットを敷き、ザックを下ろし、自分の空間の確保をする。

約4時間のソロの後はディレクターの先導のもとタープへ。目を閉じて移動した先に待っていたのは、イントラやサブイントラが愛情込めて盛り付けたフルーツが！夕食も兼ねて、みんなでソロ開けフルーツパーティー。途中、スタッフ実演ファイヤーキッチンショーもあり、わいわいおしゃべりしながらの楽しい夕食タイムになった。

ソロ中は、いい時間が過ごせた、何もすることがなかった、いつの間にか寝ていたなど、それぞれの時間を思い思いに過ごされていたようだった。キャンプの前に子ども達がソロ中に読む手紙を書くように頼まれており、母親だけが書いて自分は書かなかったが、今日ソロをしてみて、自分も書けばよかったと思ったとの感想もあった。

明日に向けてのミーティングでは、一日の出来事を振り返りながら明日に生かすための意見交換

《タイムスケジュール》	
5：00	起床
5：30	食事
6：00	テント・タープ片付け 出発の準備
7：40	神角神社発 ～バックパッキング 昼食
12：40	鍛冶ヶ原着 テント・タープ設営
13：30	個人ふりかえり場へ出発
17：00	終了の声かけ開始
17：30	個人ふりかえり終了
17：50	フルーツパーティー開始
19：00	ナイトミーティング
22：00	就寝

ができた。イントラから、昨日は一人で見えていた地図を今日は5人で見ていたとの話もあり、みんなで力を合わせて歩いてきたことがファイナルツアーへの自信につながっているように見えた。明日は自分たちだけで地図を見ながら進まなくてはならない。イントラからのルート情報を真剣に聞く参加者達。その後も地図を見ながら明日のルートイメージをする姿も見られた。「レッツ5ファイナル！」の掛け声のもと、十種ヶ峰の山頂に向けてみんなで進んでいこうという気持ちが高まった。



3日目「ファイナルツアー〜ピークアタック〜ラストナイトミーティング」

平成30年8月3日(金)

鍛冶ヶ原〜十種ヶ峰山頂〜十種ヶ峰青少年自然の家
テーマ：覚醒の日（実行力と協調性）

【活動の様子】

3日目も晴天。4時半に起きたメンバーは、声をかけながらストレッチ、朝食準備、テントやタープの撤収、パッキングとすっかり手慣れた様子で、6時40分には出発。昨晚のミーティングで共有した思いを胸に、レッツ5ファイブのファイナルツアーが始まった。

イントラ、サブイントラは様子を見守りつつ、グループに任せて少し離れて歩く。ナビを中心にみんなで地図を見合い、ルートを確認しながら歩いていく。前日子どもたちがピークを目指し歩いた道を踏みしめ、藪をかき分け、助け合い、手を取りながら力強く進んでいく。

11時、ディレクター、本部スタッフが待つ十種ヶ峰山頂に到着！お互いに喜びを分かち合いながら、笑顔でハイタッチ！冷たい水を頭からかけ合い、三角点の上で、なぜかオレンジで乾杯！山頂から自分たちが歩いてきたルートを確認すると、その道のりの長さには驚く。山頂からの眺めを楽しみながら昼食をとった。

12時5分、十種ヶ峰青少年自然の家に向けて下山開始。自然の家では、子どもたちがクリーンナップの真最中。出会わないように気をつけながら到着した。

《タイムスケジュール》

- 4：30 起床
- 5：45 朝食
- 6：10 片付け、準備
- 6：40 鍛冶ヶ原出発
- 11：00 十種ヶ峰山頂到着
- 11：15 昼食
- 12：05 下山開始
- 13：30 十種ヶ峰青少年自然の家着
- 14：00 クリーンナップ
- 17：00 入浴
- 19：00 夕食
- 21：00 ラストナイトミーティング
- 22：00 個人懇談&各自振り返り
～就寝

到着後、早速クリーンナップを開始。使った道具に感謝しつつ、テントやタープを干し、ザックやスパッツ、フードバックなどの汚れを落として乾かす。お風呂に入って、夕食を作る。ご飯がふっくら炊きあがり、ちらし寿司が完成。みんなで食べる久しぶりのお米は、とってもおいしい。

夕食後は自然の家の中でラストナイトミーティング。建物の中だが、あえて電気は使わず、外でのミーティングのように行く。それぞれ一人ずつにサンクスを伝えた。ソロ中に全員にあてたサンクスを考えていたという方もおり、参加者だけでなくスタッフにまで伝えてくださる言葉が心にしみる。だれかにありがとうと言ってもらえることはうれしい。しかし、だれかにありがとうと言うためには、相手をよく見ていなくてはできない。サンクスにはそんな意味もある。

ペアレントプログラムに参加したメンバーのみの特典となる夜の懇談会では、我が子のがんばりをスタッフから聞き、明日子供たちに会うことがより楽しみになったようだった。懇談の時間を生かして、他のメンバーは、プログラムの感想を書いたり、ハンダナにメッセージを書きあったりした。



4日目「ファイナルミーティング〜閉会式」

平成30年8月4日(土)
十種ヶ峰青少年自然の家～各自宅へ
テーマ：旅立ちの日（現実での実践）

【活動の様子】

最終日はこれまでより少し遅めの6時起床。朝食ではボリュームたっぷりのサンドイッチやスティック野菜等が彩りよく盛り付けられる。コーヒーを飲みながら、のんびりと話しながら食事を楽しんだ。食器等残りの道具のクリーンナップと自然の家の掃除を手分けして声を掛け合いながら行う。

《タイムスケジュール》

6：00 起床
6：30 朝食
8：00 片付け&掃除
9：00 アクティビティ
9：20 解散式（修了証授与）
9：40 解散！！
個人ラン応援

この3泊4日をふり返るアクティビティを行う。スタッフからの問いかけに笑顔で楽しむ参加者の姿は、3日前にまだお互いのことをよく知らない中、緊張しながらゲームをしたときの姿とは違っていった。最後にお互いに渡された相手にバンダナを巻き合うとその軌跡が星になった。それには、イントラ、サブイントラからの「お父さん、お母さんがとてもキラキラ輝いていてレッツ5ファイブスター！だった」との思いが込められていた。

解散式ではディレクターから修了証書を一人ずつに手渡した。共に過ごした時間は決して長くはないが、お互いを思いやり、信頼し、助け合えるレッツ5ファイブは素晴らしかった。

3泊4日のキャンプは今日で終了だが、メンバーそれぞれの場所でまたチャレンジが始まる。背負う荷物が重たく感じて下ろしたくなることもあるだろう。どの道を歩こうか悩むときもあるだろう。行き先が見えずに心が折れそうになるときもあるだろう。しかし、そんなときはこの3泊4日で手に入れたものを思い出して、家族というチームみんなで力強く一歩を踏み出してほしい。そんな思いを込めて、スタッフ全員で送り出した。

「いってらっしゃ〜い！！」



【参加者の感想より】

- 自分の限界をはるかに超えるものでしたが、無事プログラムを終えることができたのは、マー、こうじ、ハイジ、しまこ、むしさん、けいちゃん、ジャンボ、A子ちゃんのおかげと、子どもたちが同じことをやりとげているということでした。自分にとって、とても大変な体験でしたが、その経験を子どもと共有できたことは大切な経験になったと思います。
- 一人ひとり違う思いをぶつけ合い、思いを伝えることの大事さをあらためて痛感しました。日々の生活では、「我慢して言わない方が良い」「その方が上手くいく」と考えていました。しかし、「伝えることが大切」「伝えないと伝わらない」「思っているだけではダメだ」ということが分かりました。
- バックパッキングの基本、特にクリーンナップの大切さを実感しました。メニューを見た時は少ない感じがしましたが、ゴープや携帯食があって良かったです。
- 親が子どもの体験とほぼ同じことをリアルタイムでチャレンジすることがあるでしょうか？目の前の山を一生懸命にのぼる、自分のキャパオーバーかと心がおれそうなことに挑戦する、こんなきついことを子どもたちがしたのかと思いはせる…このことに非常に感動しました。
- 想像を何十倍も超える（具体的には登山方法です）プログラムでした。重いザックを担いで、見たこともないような地図から歩く道程を決めて、使ったこともないコンパスを頼りに目的地を目指す。必要最低限のカロリーだけを摂取して、ひたすら水分を補給して、暑いテントの中で睡眠を得る。でもこれはすべて子どもたちと同じ条件。むしろ日数の長い子どもたちの方が想像を超える世界に身を置いているのだと思うと、この体験が子どもたちの今後の人生に大きくて深い影響を与えているという思いがよぎります。

